

2021（令和3）年度

# 評価・評定説明会資料

- I これからの学習評価
- II 評価・評定の具体的な方法について
- III 各教科の評価評定計画について



逗子市立沼間中学校

2021（令和3）年 月日（）

14:40~15:40 図書室



児童・生徒、保護者の皆様へ 

## 公立小学校・中学校 **これからの学習評価**

### 新しい学習指導要領、スタート！

(小学校：2020年度～、中学校：2021年度～、特別支援学校は小・中学校学習指導要領に合わせて実施。)

全国どこの学校で教育を受けても、一定の教育水準を確保するために、各教科等の目標や内容などを文部科学省が定めているものが学習指導要領です。教科書の内容や学校での学習指導と学習評価の基となるものです。

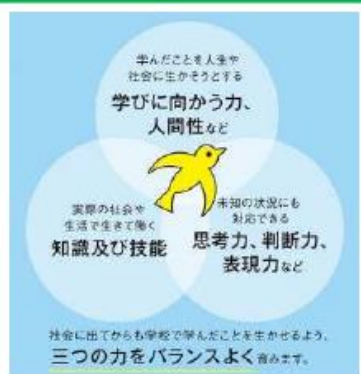
各学校では、学習指導要領に定められる各教科等の指導事項や、授業時間数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、各学校が定める教育目標を実現するために、教育課程を編成し、指導と評価の計画を立てています。

### 社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、 三つの力をバランスよくつけていきます。

新学習指導要領では、幼稚園から高等学校までのすべての学校教育で、

- (1) 知識及び技能
- (2) 思考力、判断力、表現力等
- (3) 学びに向かう力、人間性等

の「三つの柱」で示された資質・能力を育成することとされました。



#### 「学びに向かう力、人間性等」の評価について

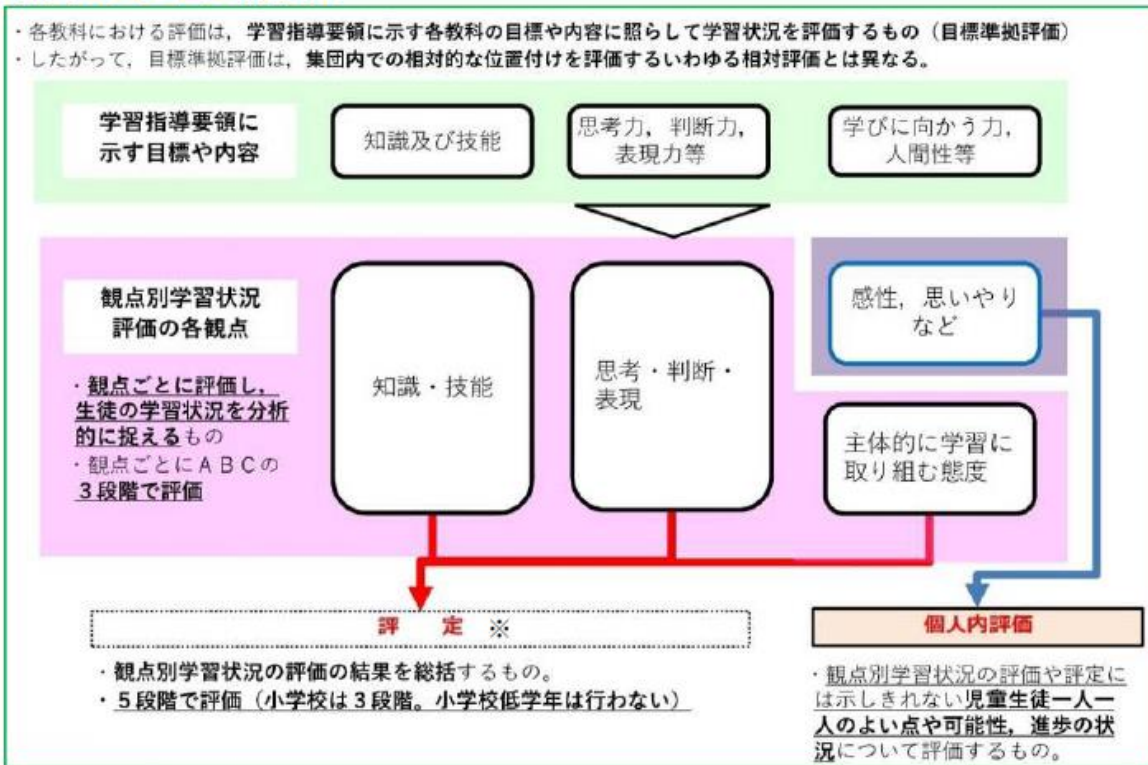
「学びに向かう力、人間性等」には、

④「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、

⑤観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

④「主体的に学習に取り組む態度」は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

# 評価の基本構造



文部科学省初等中等教育局教育課程課「新学習指導要領の全面实施と学習評価の改善について」令和元年度地方協議会等説明資料

※「評定」は観点別学習状況の評価の結果を総括したものです。通知表(あゆみ)等での表記は、各学校の工夫によります。

各教科における評価は、集団内の位置付けではなく、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして、一人ひとりの学習の状況を評価するものです。

Q 観点別学習状況評価の各観点は、どのように評価されるのですか？

A 「知識・技能」は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

「思考・判断・表現」は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために

必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

「学びに向かう力、人間性等」の「主体的に学習に取り組む態度」は表面に示したとおりです。また、「感性、思いやりなど」については、ABCではなく、一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況、努力や工夫などを積極的に認め、評価し、自信や意欲につなげる評価をし、日常的に伝えます。

Q 家庭として、学校から評価を受けとったら、どのような対応をすればよいですか？

A 児童・生徒一人ひとりが、教科等の目標をどこまで達成したか示していますので、御家庭では、受け取った結果をお子さんと一緒に御覧いただき、よく達成できたところはほめ

て伸ばしていただくように、課題があるところは今後どのように学習していくかを共に考え、次の学習への自信や意欲につなげていくようにしてください。

## II 評価・評定の具体的な方法について

各学校において、目標に準拠した評価を行うためには、子どもたちの学習の状況を客観的に評価する必要があります。文部科学省や各教育委員会においてはそれぞれの学校における評価の客観性向上の支援のため、評価の基準や評価方法の研究開発を進めています。本校でも、その後の教育活動に生かすとともに、生徒・保護者からの妥当性・信頼性を高めることができるよう教員研修を実施し、教員間の共通理解を図っています。

### (1) 観点別学習状況

観点別学習状況とは、各授業で収集した評価資料を基に、単元（題材）の目標に対する実現状況を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点ごとに目標に準拠した評価で分析的に評価し総括したものです。A<sup>o</sup>、A、B、C<sup>o</sup>、Cの5段階で記入します。

#### < 観点別評価及び到達目標に対する割合の目安 >

観点別評価の段階		到達目標に対する割合の目安
A <sup>o</sup>	十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの	90%以上
A	十分満足できると判断されるもの	80%以上
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上
C <sup>o</sup>	努力を要すると判断されるもの	25%以上
C	一層努力を要すると判断されるもの	25%未満

### (2) 評定

観点別学習状況（A<sup>o</sup>、A、B、C<sup>o</sup>、Cの5段階）の評価を出し、3観点を合計してその合計点により5段階の評定を決定します。A<sup>o</sup> = 5点、A = 4点、B = 3点、C<sup>o</sup> = 2点、C = 1点とする。

#### < 5段階評定と観点別評価の合計との対応表 >

組合せの代表例	(合計値)	評定と規準
A <sup>o</sup> A <sup>o</sup> A <sup>o</sup>	(15)	5 十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの (15点～14点)
A <sup>o</sup> A <sup>o</sup> A	(14)	
A <sup>o</sup> A <sup>o</sup> B	(13)	4 十分満足できると判断されるもの (13点～11点)
A A A	(12)	
A <sup>o</sup> B B	(11)	
A B B	(10)	3 おおむね満足できると判断されるもの (10点～8点)
B B B	(9)	
B B C <sup>o</sup>	(8)	
B C <sup>o</sup> C <sup>o</sup>	(7)	2 努力を要すると判断されるもの (7点～5点)
C <sup>o</sup> C <sup>o</sup> C <sup>o</sup>	(6)	
C <sup>o</sup> C <sup>o</sup> C	(5)	
C <sup>o</sup> C C	(4)	1 一層努力を要すると判断されるもの (4点～3点)
C C C	(3)	



### (3) 各教科の観点と評定の実際について

各教科の観点項目や評価の方法は、教科により異なります。教科の評価では、観点によって、ペーパーテスト・実技テストなどによる評価が重視されるもの、生徒のレポート・ノート・作品などによる評価が重視されるものなど、評価方法の重点の置き方に違いがあります。各教科では、教科の単元・題材等の学習目標に対し生徒一人ひとりがどのような学習状況にあるかを評価するために「評価規準」を作成しています。

## Ⅲ 各教科の評価評定計画について

具体的な評価評定計画は教科毎に「学習情報」を作成し、それに基づき行われます。今年度の各教科学習情報は次ページ以降でお知らせいたします。ご不明な点については遠慮なく学年・教科担当にお尋ねください。

